

---

# 君との出会いは失神級

白兎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君との出会いは失神級

### 【NZコード】

NZ644

### 【作者名】

白鬼

### 【あらすじ】

12月31日。大晦日。まさか最後の最後に君と顔を合わせるなんて！

あれは・・・そう、大みそかだつたんだ。  
俺は掃除をしていて、  
それで・・・、

気を失つたんだ。

12月31日。

翌年に向けて大掃除をしていた。  
前もつてやるのが普通だらうけれど、バイト三昧の俺には不可能。  
一人暮らしも樂じやない。  
樂じやないよ、母さん。

溜まつてゐる汚れどもを一つずつ始末していく。  
換氣扇は眼をそらしたくなるくらい、汚れていた。  
台所付近が最も手ごわい。  
くそ、日ごろから少しでもやつておくべきだった。  
きつとこのセリフを来年も言つていいだらう。

一息ついたところで、視線をベランダの方へ向ける。  
外はすでに藍色になつていた。

やべ、夕飯買つてない。

カツチラーメンは切れているし、冷蔵庫には・・・何があつたかな?  
とりあえず、俺は雑巾を洗い、スプレーを片づけた。  
結構働いたので、台所が見やすくなつた気がする。

汚れた服を取り換えて、財布をズボンのポケットに入れる。

今日はいつも以上に寒いから、ダウンジャケットだな。  
俺は明かりをつけたまま、玄関へ向かった。

見違えるように綺麗になつた台所を通して・・・。

小さなビニール袋に弁当と烏龍茶。

雪の匂いがする夜道を早歩きで過ぎる。

大晦日だからだろうか、いつも以上に家の明かりが点いている。  
本来なら俺も実家に帰省する予定だった。

しかし、バイトバイトの毎日で、新幹線の切符を買い損ねた。  
だからといって、自由席には乗りたくないのとそのまま。  
そのせいで電話で妹に不平を言われた。  
1年くらい、別にいいだろ。

静電気に気をつけながらドアを開ける。  
靴を揃え振り向くと、普段と違う台所。

なんだか新鮮な気分だ。

ん？ 髪の毛か。

影に隠れてよく見えなかつたのだろう。

髪の毛は素早く指を床につけて取ると簡単だ。  
俺は少しがみ、ソレを掴んだ。

さて、「み箱」「み箱」・・・

っ！？

おかしい。

なんで、重みを感じるんだ？

恐る恐る田線を手元に下げる。

そこで記憶が途切れた・・・。

「ああ、見なきゃよかつた

目が覚めた後の第一声。

俺は床に横になつたまま呟いた。

身体は脱力した状態で、動かせない。

本当にダメなんだ。

アレは。

アレだけは。

そう、髪の毛だと思っていたものは・・・

ゴキブリの触角だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2644j/>

---

君との出会いは失神級

2011年1月19日01時02分発行